

## 自然環境保全基礎調査の概要と傾向

調査回次	第 1 回調査	第 2 回調査	第 3 回調査	第 4 回調査	第 5 回調査	第 6 回調査
調査期間	S 4 8	S 5 3 ~ 5 4	S 5 8 ~ 6 2	S 6 3 ~ H 4	H 5 ~ H 1 0	H 1 1 ~
基本コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学的な観点に立った調査により国土の自然の現況をできるだけ正確に総合的に把握</li> <li>守るべき自然、復元・育成・整備すべき自然の抽出</li> <li>全国的な観点に立った自然保護行政を推進するための基礎資料整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な情報収集を 5 年毎に繰返し実施するという性格をより明確化</li> <li>自然環境に関する網羅的かつ客観的な基礎情報の収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回調査のコンセプトを基本的に踏襲</li> <li>前回調査以後の変化状況把握（モニタリング・定点調査の観点を導入）</li> <li>動物分布調査対象種の拡大と専門家ネットワーク構築により、長期的なデータ蓄積を図る視点を導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回調査のコンセプトを基本的に踏襲</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回調査のコンセプトを基本的に踏襲</li> <li>環境行政上の要請に合わせた調査の実施</li> <li>（生物多様性調査（H 6 ~）、海域自然環境保全基礎調査（H 9 ~）を拡充）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回調査のコンセプトを基本的に踏襲</li> <li>ストックとしての自然環境情報の更新</li> <li>環境影響評価法の施行等による新たな自然環境情報ニーズへの対応</li> </ul>
主な調査項目	<p>植生自然度調査</p> <p>1 / 2 0 万現存植生図作成、植生自然度 10 段階評価 （ねらい）列島の自然の人工化の度合を評価。守るべきエリアを抽出。</p>	<p>植 生 調 査</p> <p>1 / 5 万現存植生図作成 （ねらい）地域レベルでの計画に対応できる植生図の作成</p>		<p>植生調査</p> <p>ランドサット画像により植生変化地抽出、植生図部分修正 （ねらい）植生調査の省力化、コストダウン</p>	<p>湿地調査</p> <p>ラムサール湿地定義に準拠した湿地のリストアップ （ねらい）湿地保全の基礎情報取得</p>	<p>植生調査</p> <p>1 / 2 . 5 万現存植生図作成着手 （ねらい）環境アセス対応、植生図全面改訂・精度均質化</p>
	<p>すぐれた自然調査</p> <p>「全国」「地方」「都道府県」の 3 レベルのすぐれた自然を選定。 （ねらい）守るべき自然とその分布位置を特定</p>	<p>動物分布調査</p> <p>大・中型哺乳類、繁殖鳥類等の全国分布図を作成 （ねらい）野生動物保護管理手法確立（哺乳類）、希少性や絶滅危険性の判定（鳥類）</p>	<p>動植物分布調査</p> <p>一般ボランティア参加の「環境指標種調査」、専門家ボランティアの「全種調査」2 本立て （ねらい）普通種情報集積、普及啓発（一般ボランティア）、希少種等施策対象の洗い出し（全種調査）</p>	<p>巨樹・巨木林調査</p> <p>幹周り 3 m 以上の巨樹・巨木林をリストアップ （ねらい）シンボリック自然の現況把握</p>	<p>種の多様性調査</p> <p>動植物分布調査を大幅拡充（専門家、都道府県）・鳥類については 2 0 年経年変化追跡 （ねらい）生物多様性保全のための基礎情報集積</p>	<p>種の多様性調査</p> <p>中・大型哺乳類の 2 0 年経年変化追跡 （ねらい）新鳥獣保護法対応、分布域変化把握</p>
	<p>環境寄与度調査</p> <p>関東地方の植生現存量、植生生産量を計算 （ねらい）「自然環境と人間活動とのかかわりあい」「都市における自然環境の役割」等を定量的に評価</p>	<p>特定植物群落調査</p> <p>選定基準に基づき保護を要する群落を抽出 （ねらい）保護対象の抽出、国土レベルでの配置、配分の基礎資料</p>	<p>特定植物群落調査</p> <p>追加調査、追跡調査、生育状況調査の 3 本立て （ねらい）保護対象抽出（追加）、簡易モニタリング（追跡）、典型的群落のモニタリング（生育状況）</p>	<p>生態系総合モニタリング調査</p> <p>全国 5 ヶ所で、1 0 k m 四方の地域の生態系モニタリング （ねらい）人為の影響の予想される地域の生態系動態モニタリング</p>	<p>遺伝的多様性調査</p> <p>動植物 4 0 種の遺伝子分析 （ねらい）遺伝子解析技術の生物多様性保全への応用ケーススタディ</p>	<p>湿地調査</p> <p>主要な湿地の生物相調査 （ねらい）ラムサール条約登録候補湿地等の情報整備</p>
		<p>海岸調査、湖沼調査、河川調査</p> <p>海岸、湖岸、河岸の人工化の状況を調査、原生流域の抽出等 （ねらい）水辺の自然性の消失を監視、保全すべき原生流域の抽出</p>			<p>重要沿岸域生物調査、海棲動物調査</p> <p>干潟・藻場・サンゴ礁計 3 4 ヶ所、ウミガメ、アザラシ、スナメリ分布調査 （ねらい）海洋生物調査のケーススタディ</p>	
調査費用	4 億円	1 4 億円	1 4 億円	1 2 億円	2 8 億円 多様性調査・海域調査（それぞれ第 1 期）を含む	1 3 億円（H 1 1 ~ 1 3） 多様性調査（第 2 期）を含む
調査体制	<p>委員会 1、小委員会等 5、延べ 6 9 人</p> <p>都道府県委託（調査） 民間委託（情報処理）</p> <p>調査員数：詳細不明</p>	<p>検討会 1、分科会等 2 1、延べ 1 4 9 人</p> <p>都道府県委託（調査） 民間委託（鳥類調査、情報処理）</p> <p>調査員数：植生、特定植物群落各 5 0 0 名 哺乳類 2 2 0 0 名 野鳥の会 1 0 0 0 名</p>	<p>検討会 1、分科会等 1 6、延べ 1 2 6 人</p> <p>都道府県委託・支出委任（調査） 民間委託・請負（海岸調査、情報処理） ボランティア調査</p> <p>調査員数：植生、特定植物群落各 5 0 0 名 一般ボランティア 1 0 万名 動物専門家 6 0 0 名 野鳥の会 1 6 0 0 名</p>	<p>検討会 1、分科会等 1 4、延べ 1 2 2 人</p> <p>都道府県委託（調査） 民間委託・請負（調査、情報処理） ボランティア調査</p> <p>調査員数：植生等未集計（大体前回並） 一般ボランティア 1 0 万名 動物専門家 1 2 0 0 名 鳥獣保護員 1 3 0 0 名</p>	<p>検討会 1、分科会等 1 7、延べ 1 3 7 人</p> <p>同左</p> <p>調査員数：植生等未集計（大体前回並） 一般ボランティア 1 0 万名 動物専門家 2 4 0 0 名 鳥獣保護員 1 0 0 0 名 野鳥の会 1 0 0 0 名</p>	<p>検討会 1、分科会等 1 8、延べ 1 5 2 人</p> <p>同左</p> <p>調査員数：未集計</p>